

都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会

平成 27 年度 第 1 回がん登録部会 議事次第(案)

日時 : 平成 27(2015)年 6 月 6 日(土) 13:30~16:30

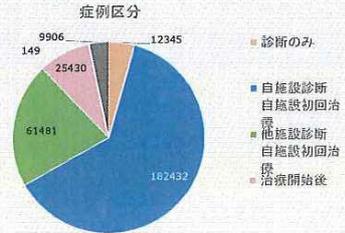
場所 : 国際研究交流会館(3 階) 国際会議場
(国立がん研究センター築地キャンパス内)

1. 開会
国立がん研究センター
堀田 知光
2. 報告
 - 1) データ利用審査委員会からの報告
資料 1
 - 2) 院内がん登録 2013 年全国集計の結果について
資料 2
 - 3) 院内がん登録 2014 年全国集計の日程について
資料 3
 - 4) 予後調査支援事業について
資料 4
 - 5) がん種別登録件数システム運用について
3. 議題
 - 1) 院内がん登録データ特別研究について
資料 5
 - 2) 院内がん登録予後付集計の公表について
資料 6
4. その他
5. 閉会
堀田 知光

拠点病院 院内がん登録 5年相対生存率(2007年)

2007年5年相対生存率

- 234施設から 291,745例を収集
- ◆ 必須項目での提出施設は集計に含めず



2

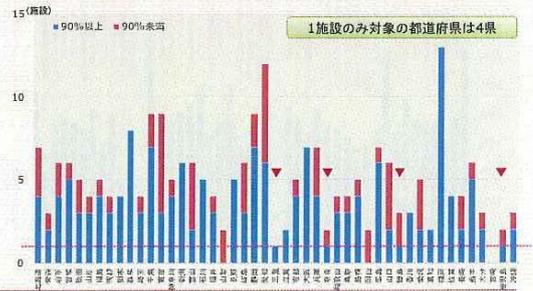
予後判明率

- 症例区分: 2,3
 - ◆ 死亡日が確定しているか
 - ◆ 追跡期間(生存最終確認日-起算日+1)が1825日以上(365日×5年)
 - ◆ 起算日・最小生存確認日・死亡日の乖離を検討
- 234医療機関 239,629症例を対象
 - ◆ 予後判明率90%以上の168施設を集計対象

3

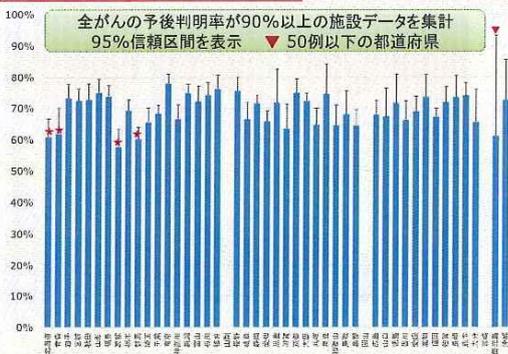
都道府県別・施設別 予後判明率

- 234施設のうち、168施設は全がんで予後判明率が90%以上



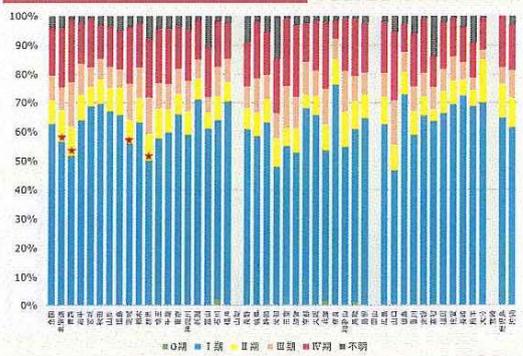
4

胃がんの5年相対生存率(2007年)



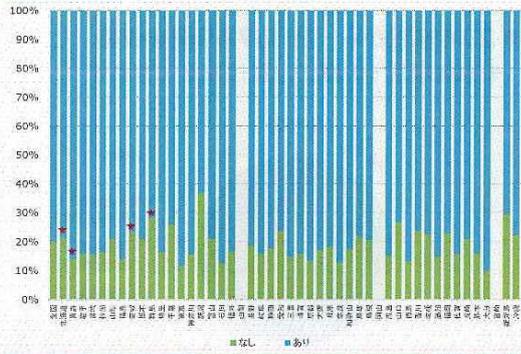
5

胃がんの臨床病期(2007年)



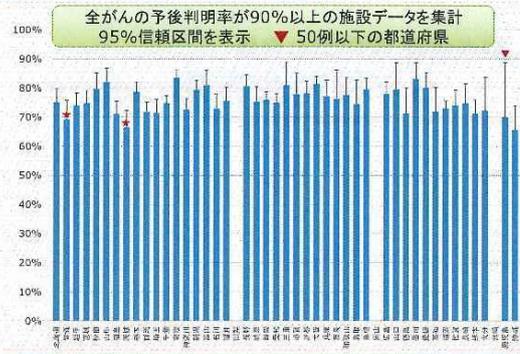
6

胃がんの観血的治療割合(2007年)



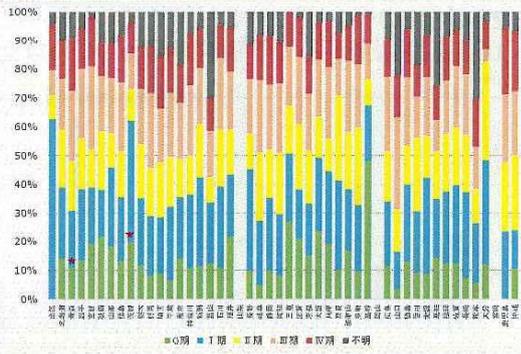
7

大腸がんの5年相対生存率(2007年)



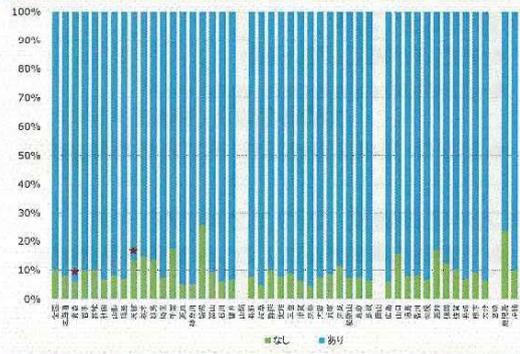
8

大腸がんの臨床病期(2007年)



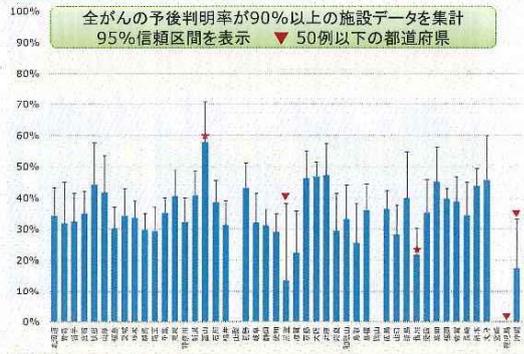
9

大腸がんの観血的治療割合(2007年)



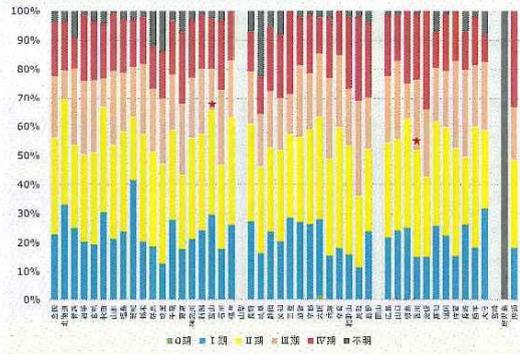
10

肝がんの5年相対生存率(2007年)



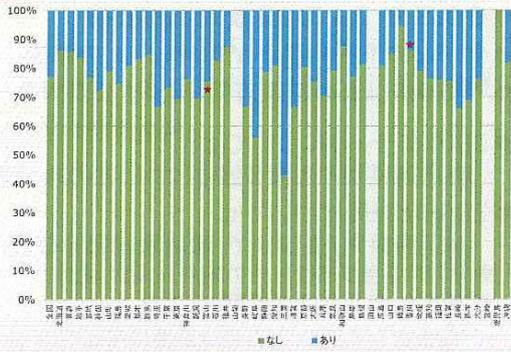
11

肝がんの臨床病期【取扱い規約】(2007年)



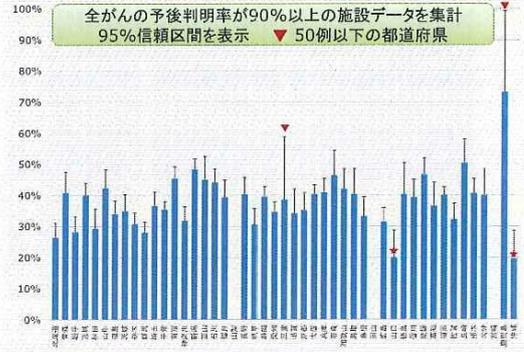
12

肝がんの観血的治療割合(2007年)



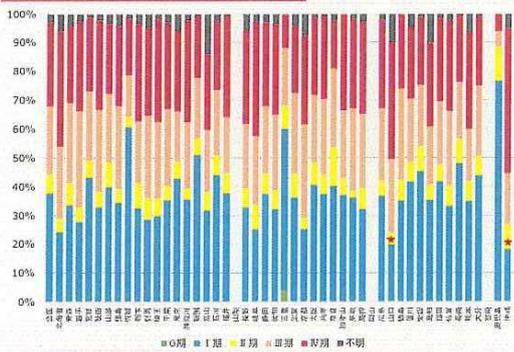
13

肺がんの5年相対生存率(2007年)



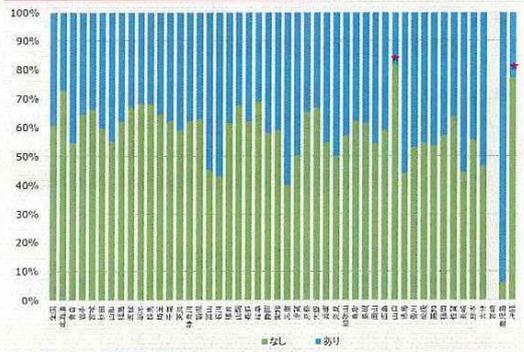
14

肺がんの臨床病期(2007年)



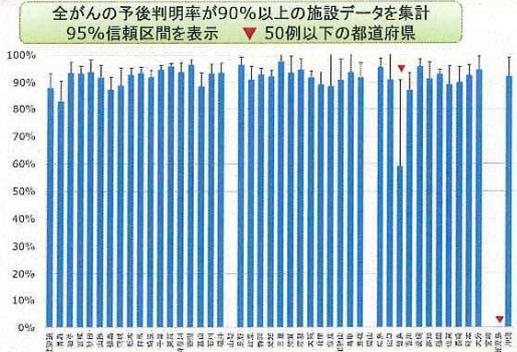
15

肺がんの観血的治療割合(2007年)



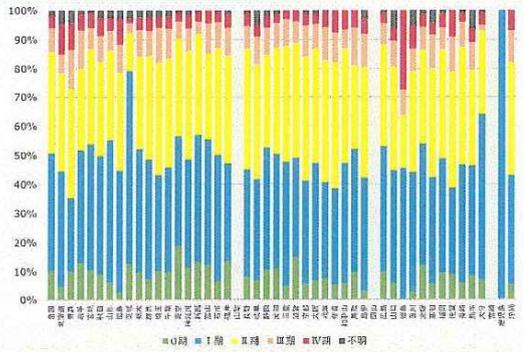
16

乳がんの5年相対生存率(2007年)



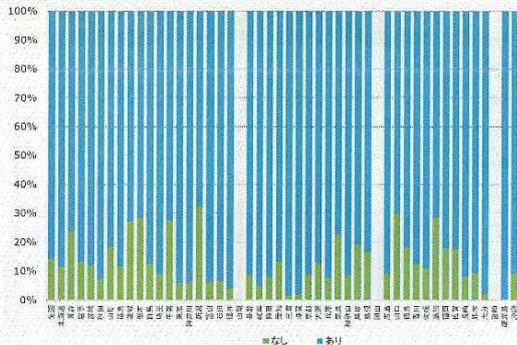
17

乳がんの臨床病期(2007年)



18

乳がんの観血的治療割合(2007年)



19

公表の基準

- 症例区分: 2 or 3 自施設初回治療症例
- 全がんの予後判明率が90%以上の施設
- 原則50例以上の都道府県/施設を公表対象
- 2007年データについては、1施設のみ対象の都道府県は?
都道府県別で主要5部位についてのみ公表
- 2008年以降については
都道府県別/施設別で 部位別結果を公表
 - ◆ 県別は主要5部位以外の集計・公表も検討
 - ◆ 当面は、施設別は主要5部位のみ

拡張する場合は、がん登録部に諮っていく

20

公表の方法

- 全国値、都道府県値(1施設県を含まず)
調査参加施設名(対象施設名は含まず)
- 全がん、胃、大腸、肝、肺、乳の6区分
 - ◆ 区分別 都道府県別の予後判明率の概要
 - ◆ 区分別 都道府県別の臨床病期の概要
 - ◆ 区分別 都道府県別の観血的治療比率の概要
- 付言すること
 - ◆ 限られた施設でのデータであること
 - ◆ 病期等の偏りが影響している可能性があること
 - ◆ 全体の予後判明率が、低い水準であること
 - ◆ 要因を分析するに至っていないこと

21

